

令和5年度 生徒指導部会研究計画

1 研究主題

子ども達一人ひとりの明るい未来を支える生徒指導 —「やる気」「学習指導」「チーム」に視点をあてた指導・支援—

2 研究主題の設定について

ウクライナ情勢や世界的人口増加、食糧危機など現代の日本を取り巻く世界情勢は刻一刻と変化している。日本においても、少子高齢化の加速による人口減少、人工知能（AI）の飛躍的な進化など絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は急速に変化している。子ども達が成人し、社会で活躍する頃には、厳しい挑戦を強いられることが予想される。本県でも、人口減少による過疎化や労働力不足、財政悪化が加速し、深刻な問題となっている。

このような時代を生きていくため、学校教育には、一人ひとりの児童が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り開き、持続可能な社会の造り手となることができるようにすることが求められる。

社会情勢の急速な変化により、子どもや家庭、地域、学校現場には、いじめ、不登校はもとよりオンラインゲームやSNSなどのネット上のトラブル、ヤングケアラー、貧困家庭など、新たな課題が生じるだけでなく、さらに複雑化・多様化した様々な問題が生じている。このような諸問題に、教師が個人で対応していくことは現実的に難しくなっている。

そこで、諸問題を未然に防ぎ、子ども達が充実した学校生活を送るためにも、今一度、生徒指導のあり方を見直し、充実させる必要がある。これを後押しするように、昨年12月に新しく生徒指導提要も改訂され、生活面・学習面の両方の側面から生徒指導の大切さが示された。

本研究会では、令和3年度、「自己存在感」「学習指導」「豊かな学び」という3つの視点で研究に取り組んだ。令和4年度は一部を見直し、児童が「自己存在感」を実感できる指導・支援の在り方、「学習指導」に視点をあてた指導・支援の在り方、「社会的なリテラシー」の育成をめざす指導・支援の在り方について研究を進めた。

令和5年度は、上記で述べたように生徒指導提要の改訂も踏まえながら、これまでの研究の流れも受け継ぎ、「やる気」「学習指導」「チーム」の3つの視点で研究を進めていく。子ども達一人ひとりが充実した学校生活を送り、明るい未来を歩めるように、3つの視点において、効果的な指導・支援の方策を探り、県内の様々な地域や学校の取組を共有しながら、主題を達成するために研究を進めたい。

3 研究の視点について

(1) 子どもの「やる気」を育てる指導・支援の在り方

現代の子ども達に足りないものは何かと尋ねられれば「やる気」と答える人は多いのではないか。生徒指導提要には、生徒指導とは「自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動」ⁱと記述されている。「自発的」「主体的」とはどのように育てられるのだろうか。教師や保護者主体で育てられるものなのだろうか。

「自発的」「主体的」どちらも物事を自分から進んで行う意味があり、子ども主体で行われるものである。似た言葉に「自主性」「主体性」がある。一般的に、やらなければならない課題に対して進んで取り組むことが自主性であり、何のためにこれをするのか、これをするによってどうなりたいかそのイメージをもって取り組むのが主体性であると考えられる。

「自主性」「主体性」を育てるためには、子ども達が自ら進んで行いたいと思える環境を作る必要がある、

やりたいという気持ちを育て「やる気」を引き出す必要がある。

そこで、『子どもの「やる気」を育てる指導・支援の在り方』を第1の視点として研究を進める。

【具体的な方策】

- ・学校行事や特別活動における取組
- ・ポジティブな行動支援の推進
- ・お互いの良さや個性を認め合うことができる学級経営

(2) 「学習指導」に視点をあてた指導・支援の在り方

子ども達の学校生活において一番多くの時間を要するのが授業である。子ども達にとって授業は、初めて知る事や今まで経験していない事、自分達が取り組みたい事を見つけ向き合う事で、自己達成感や充実感などを感じ、自信を強め、自尊感情や自己肯定感を高める、成長に重要な時間である。だから、授業が充実すれば必然的に学校生活も充実する。各教科の授業において、子どもが意欲的に取り組み、わかる喜びを実感することが大切である。また、新学習指導要領に「学習指導と関連付けながら、生徒指導の充実を図ること」ⁱⁱ「分かる喜びや学ぶ意義を実感できない授業は児童にとって苦痛であり、児童の劣等感を助長し、情緒の不安定をもたらし、様々な問題行動を生じさせる原因となることも考えられる」ⁱⁱⁱと述べられている。

このことから、様々な問題行動に対応するためには、学習指導を充実させることが必要不可欠であると考え、『「学習指導」に視点をあてた指導・支援の在り方』を第2の視点として、研究を進める。

【具体的な方策】

- ・各教科の教育活動
- ・教材教具の工夫
- ・教室環境の充実

(3) 子どもも教師も個性が発揮できる「チーム」で行う指導・支援の在り方

学校を取り巻く環境は厳しさを増し、教職員の休職者の増加やこれに伴う働き方の見直しは、社会問題のひとつとなっている。現状のままでは、子どもと向き合う時間の確保や適切な生徒指導、教科指導を行うことは難しくなりつつある。また、「研究主題の設定」で述べたように教師が個人で対応する場合は限界もある。このような状況において、生徒指導提要の改訂により「第3章チーム学校による生徒指導」^{iv}という項目が追加され、「チーム」で指導することの認識が高まってきている。そこで、「チーム」に注目し、主題に迫りたいと考えた。「チーム学校」で示されている学校全体の組織や複数名で構成される。援助チームなど、学校規模や地域性、ニーズにより様々な形態をとるものとしている。このように、「チーム」で行う様々な活動を共有することで一人で抱え込まず、どんな局面も乗り越える手助けとなり、社会的なリテラシーの獲得など生徒指導の目的達成に寄与するのではないかと考えた。そこで、第3の視点として、『子どもも教師も個性を発揮できる「チーム」で行う指導・支援の在り方』について研究を進める。

【具体的な方策】

- ・学校や地域などのチームで行う取組
- ・生徒指導体制の見直し
- ・徳島型メンター制度の取組
- ・チーム支援による発達指示的生徒指導
- ・チーム支援による課題予防的生徒指導
- ・チーム支援による困難課題対応的生徒指導

【参考・引用文献】

- i) 文部科学省 (2022) 生徒指導提要「生徒指導の定義」P12
- ii) 文部科学省 (2017) 学習指導要領「生徒指導の充実」P99
- iii) 文部科学省 (2017) 学習指導要領「生徒指導の充実」P100
- iv) 文部科学省 (2022) 生徒指導提要「チーム学校による生徒指導体制」P68～